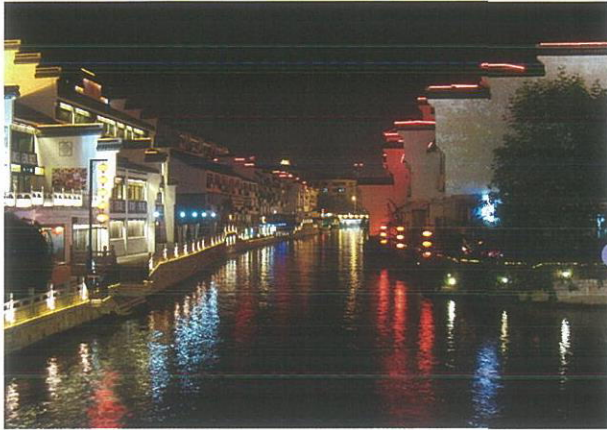


緑豊かな古都

南京は中国江蘇省の省都で、長江下流にある人口約六〇七万人の大都市である。歴史的古都でもあり、改革の父とも呼ばれる孫文の墓中山陵や城壁など、多くの名所旧跡がある。市の中心部は高層ビルやデパートが建ち並びとてもぎやかだが、街全体に緑が多く見られるのも南京の特徴である。ただ、気候は年間を通して湿度が多く、特に夏の猛暑は有



校舎を借用している南京国際学校外観



夫子廟の夜景

●中華人民共和国● **南京**
補習授業校

名で「中国三大かまど」の呼び名でも知られる。

南京大虐殺という歴史が影響してか、南京に來ている日本企業は少なく、日本人はいまだ六〇〇人ほどである。しかし、ここで生活するほとんどの日本人は市民から嫌悪感を持たれることなく過ごしている。また、昨年発足した南京日本人会などを通して、現地の人々とも積極的な交流を行っている。

現地の教育環境

中国の義務教育は小学校の六年間と中学校の三年間で日本と変わらない。たいていは地域ごとに決められた地元の学校に通う。しかし、一般の生徒より余分な費用をかけた区域外の知名度のある学校を選ぶ家庭も少なくない。小学校から中学校へ上がる際に試験はないが、成績が重要になるので、小学校のうちから子どもたちにかかる学習の負担は日本に比べると相当大きい。高校へ上がると今度は大学入試へ向け、子どもたちにかかるストレスはさらに大きくなる

全学年合同の理科の授業



小学部2年 授業風景



ようだ。近年では優秀な子どもたちや富裕層の家庭の子どもたちが海外の大学に進むケースも増えてきている。

小・中学校の教育で日本と大きく異なる点は宿題の量である。とにかく毎日たくさんあるようで、なかにはそのために補習校での宿題をやり終えることができないという子どもも見られる。特に国語・算数・英語に力を入れているらしく、計算能力などは日本の子どもたちより進んでいる。

みんな土曜日が楽しみ

「さあ、バスに乗りましょうー」

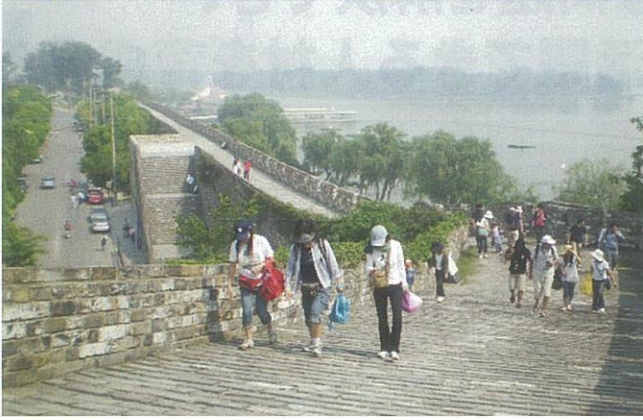
本校は土曜の朝、バスに乗るところから始まる。校舎は市の中心から離れたインターナショナルスクールを借りているため、

「木登りは楽しい！」



「僕の手からえさを食べたよ」

城壁から玄武湖公園を望む



南京補習授業校

URL <http://www.nj-japan-school.com/>

児童生徒数 幼=2人 小=5人 中=0人

子どもたちから

こちらの生活がとってもおもしろくて大好きだ。だからこの学校からはなれたくない。(小3)

学校の休み時間にみなと色々おまじをするのが楽しい。(小3)

国語で物語を読むのが楽しいです。

図書室の本が読んで本を言えるのが楽しいです。(小4)

先生が手品を披露



幼稚園部 作品を前に



日本へ帰る友達に先生から色紙のプレゼント

児童生徒は教師といっしょにバスに乗って学校へ向かう。学校へ着くまでの約一時間、子どもたちはしゃべり通しである。平日、現地校では中国語、国際学校では英語でしかコミュニケーションがはかれない。家庭で日本語を話す以外は母国語に接する機会がほとんどないなか、ここでは存分に日本語でのコミュニケーションをとることができるので、みんな楽しみに通学している。本校は二〇〇五年九月に発足し、四年目を迎えた。これまでには十五人の児童生徒がいたこともあったが、今春中学部の生徒が卒業してしまい、いまは幼稚園部と小学部合わせて七人の子どものみがか在籍している。

授業は毎週土曜日の午前中。四月に始まり三月に終わる日本と同じ学年・学期制度で、年間最低四十回の授業日を目標として

いる。教科は基本的に国語・算数・社会の三教科で、幼児教育も行っている。

また、春と秋には遠足と社会科見学を組み込んでいる。ピクニックをはじめ、野生動物生態園での動物とのふれあい、農園でのサツマイモ掘り体験や縫製工場の見学など楽しい思い出となるイベントである。保護者の参加も多く、教室では得ることのできない知識や経験が積めるので、貴重な校外授業として定着してきた。

つい先日帰国した子どもから日本の学校で活躍しているとの便りを受け、「補習校に通ってよかった」ということが教師の励みにもなっている。ここを離れた子どもたちがいつか同じような気持ちを持つてくれることを願いながら、週に一度の貴重な時間を過ごしている。

(二〇〇八年十月現在)